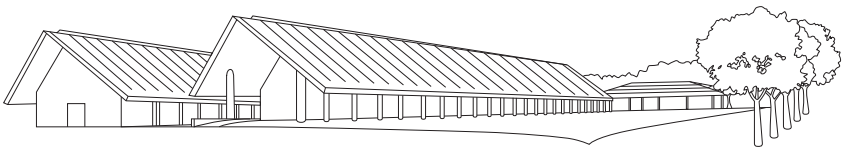
2025summer

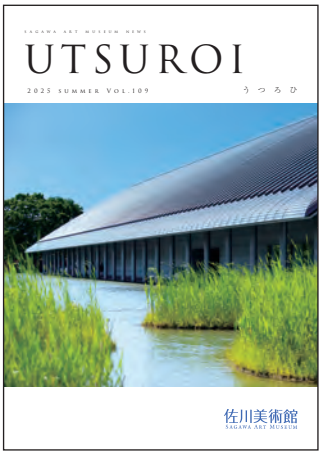
news release

佐川美術館季刊誌

うつろひ VOL.109

リリースのおしらせ





佐川美術館友の会会員の方を対象に
年４回季刊誌を発行しており、
展覧会のみどころや耳より情報をお知らせしています。
7/1 発行の 109 号では、
「ベルナール・ビュフェ　偉才の行方」を特集。
耳寄り情報満載のその他コーナーもお見逃しなく！

目次

企画展「ベルナール・ビュフェ　偉才の行方」		1－2
コレクション展 平山郁夫 平和への祈りを託して	PICK UP	3
コレクション展 佐藤忠良 響き合う彫刻		4
コレクション展 樂直入 伝統と挑戦		5
深#建築LABO / 教えてセンパイ！	PICK UP	6
フジイさんが行く！SHIGART		7
【告知】ワークショップウィーク/おすすめグルメ		8
【告知】友の会ツアー募集のご案内		9
【告知】生涯学習支援美術講座「美学」		10
長期休館のお知らせ / アンケート		裏表紙

次のページで
ちょっとだけ紹介！

年会費 3,000 円でオトク！

友の会会員募集中

詳しくはコチラ

友の会会員の方には、季刊誌をご自宅までお届けします。
その他にも特典がいろいろ！
詳しくは美術館公式 HP 内、
友の会ページをご覧ください。

Join the Friends of the Museum

文化を護り、平和を祈る

画業の傍ら、文化財保護活動にも力を入れていた平山郁夫。世界各地を取材する旅の中で戦争や自然災害によって危機にさらされる遺跡の姿を幾度も目の当たりにしたことから、その保護の必要性を強く感じたといいます。貴重な文化遺産を国や立場を越えてともに守り、後世に残すことが平和につながると考えた平山は、「文化財赤十字構想」を提唱し世界へ働きかけます。

今号では、平山が日本政府と協力して行ったアンコール遺跡救済に焦点を当てます。

Information

平山郁夫
平和への
祈りを託して

会期：開催中～
9月28日（日）

NO IMAGE

著作権保護のため、
画像を非表示にしています

《アンコールワット遺跡》1993年

アンコール遺跡、再生の懸け橋

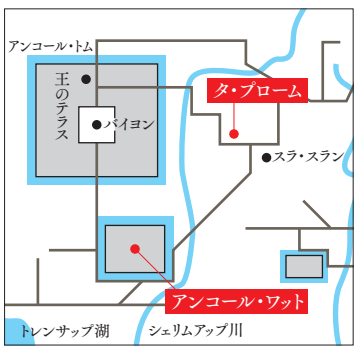
1970年に始まったカンボジアの内戦をはじめ、自然の驚異にさらされていたアンコール遺跡は、崩壊の危機に瀕していました。

1991年にアンコール遺跡救済委員会が設立され、平山も委員の一員として調査団を結成し現地へ赴きました。そこで内戦の影響や自然の力よって深刻な問題をかかえた遺跡の姿を目の当たりにします。調査後、カンボジア王族からの要請ならびにユネスコの親善大使を務めていた経緯から、アンコール・ワット前で行われたユネスコの救済宣言に立ち会うと、自身の描いた作品を公式ポスター図案として提供するなど世界へ向けて活動支援を呼びかけました。

1992年、遺跡が世界遺産・危機遺産の両方に登録されたのを受け、国際的な救済運動が広がりをみせます。平山も遺跡の現状を伝えるために取材を重ねて描いた作品の展覧会を国内外20か所で開催し、周知と救済活動の支援に努めました。

その後、国際的な協力と支援によって修復・保護活動は実を結び、遺跡は2004年に危機遺産登録から解除されます。この背景には、国家間の懸け橋となり、多くのメッセージを発信し続けた平山の活動がありました。

文化財赤十字構想による取り組みは国内外で高く評価され、現在も続く遺跡の修復・保護活動に受け継がれています。



アンコール遺跡周辺地図

NO IMAGE

著作権保護のため、
画像を非表示にしています

《タプローム アンコール遺跡》1993年

深#建築LABO

第9回 展示室の窓編

佐川美術館の建築を深掘りするコーナー。
今回は展示室の窓を取り上げます。

早速ですが、ここでクイズです

Q 佐川美術館のなかで窓のある展示室はどこでしょうか？

A 佐藤忠良館4室と樂吉左衛門館「昼の航海」

佐藤館4室には水庭を臨む大きな窓が設けられ、自然光の下で彫刻と窓から見える景色の調和を楽しむことができます。天窓から柔らかな外光が差し込む樂館「昼の航海」では、対に位置する展示室「夜の航海」における闇の中に人工照明によって作品が浮かび上がる展示空間との対比をお楽しみいただけます。

佐藤館4室

樂館「昼の航海」

佐藤館4室では、景観との調和を意識して野外彫刻として制作された作品を展示しています。

9/28まで

どうして展示室には窓が少ないの？

屋外に貼ったポスターが日焼けするように、自然光に含まれる紫外線や赤外線は作品の劣化を招きます。そのため多くの美術館では展示室に窓を設けず、展示物に有害な光を除去する専用の照明器具を用いて、ICOM（国際博物館会議）が定める照度基準に則ってライティングしています。佐藤館と樂館は、照度制限が設けられていないブロンズ像（金属）と茶碗（陶磁器）の展示を前提に設計されたため、作家の意向を踏まえて窓のある展示空間が実現しました。

〈照明の照度基準〉

光放射への敏感さ	ICOMの推奨照度
非常に敏感 染織品、衣装、タピストリー、水彩画、日本画、素描、写本など	50lx
比較的敏感 油彩画、テンペラ画、フレスコ画、皮革品、木製品、漆器など	150～180lx
敏感でない 金属、陶磁器、ガラス、宝石、エナメル、ステンドグラスなど	制限なし

※lx（ルクス）は明るさを表す単位で、JIS照度基準では一般住宅の居間が150～300lxとされる

照度測定器

学芸員 深井 千尋

光に弱い作品は、照度測定器を使って基準値内に照度を調整しています。

教えてセンパイ！

働き始めて3年目となり、様々な展示作業に関わる機会が増えた栗田さん。
絵画作品の「見せ方」についてギモンがあるようです。

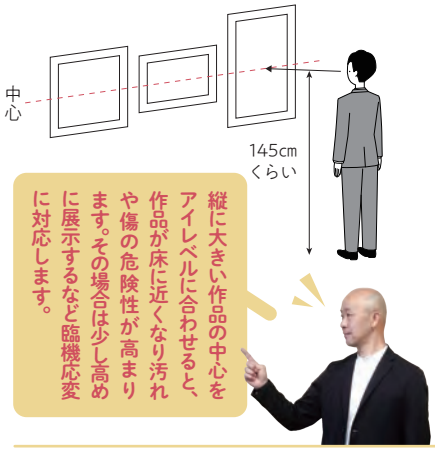
センパイ！
絵画の展示のポイントについて教えてください！

今回のセンパイ 井上さん
新人学芸員 栗田さん

作品の高さの決め方って？

鑑賞する際の目線の高さに作品の中心を合わせると作品全体が見やすくなります。この床から目線までの高さをアイレベルと言い、多くの美術館では145㎝に設定されています。アイレベルを決めておくことで大きさが違う作品を隣同士に展示しても中心の高さが揃っているため、展示全体の見栄えが良くなる効果があります。

混雑が予想される展覧会では前に人がいても見えやすいように高めにしたり、多くのお子様が来る展覧会では130㎝前後と低めにしたりと、展覧会の特徴によって都度決めています。

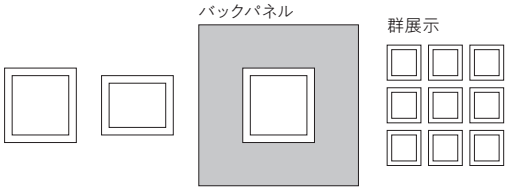


縦に大きい作品の中心をアイレベルに合わせると、作品が床に近くなり汚れや傷の危険性が高まります。その場合は少し高めに展示するなど臨機応変に対応します。

作品の間隔って大事なの？

作品の間隔は、展示空間の印象や作品の見え方を左右するためとても重要です。等間隔を基本としながらも、作家やモチーフなど共通性がある作品は間隔を狭くしたり、作品サイズが小さい場合はまとめて群展示にしたりと、展覧会の内容や展示物の特性に応じて変えています。

代表的な作品を象徴的に見せたい場合は、バックパネルをつけて間隔を大きくすることで、作品と対峙して鑑賞できるような工夫もしています。



作品の見え方は展示方法によって変化するのですね。常に作品の魅力を引き出す展示を考えることが大事だとわかりました！